

令和 4 年度

「運営に関する計画」
(最終反省)

大阪市立東淀中学校

令和 5 年 3 月

1 学校運営の中期目標

現状と課題

新型コロナウイルス感染症の影響により運営に関する計画に従った取り組みも制限や変更、中止があり、校内の現状や課題に対して効果的に生徒への支援や改善ができなかった部分もあった。新しい生活様式を踏まえながら、柔軟に取り組みを進めていく。

生活指導面において年々改善して徐々に落ち着いてきている。しかしながら、授業態度など生徒の主体的な行動にはまだまだ課題が見られる。生徒自身の意識においても「授業中はまじめに学習に取り組んでいる。」の質問では、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合は 50 % である。また、「学校に行くのが楽しい。」と肯定的に答える割合は、83 % であるものの、「どちらかといえばそう思う」という消極的に肯定する生徒が肯定する生徒全体の約半分に及ぶ。生徒の意識も含め、まだまだ多く改善する余地がある。

学力面においては、改善傾向にあるものの、全国学力・学習状況調査や中学生チャレンジテストの本校の平均はどの教科においても大阪市平均を下回っている。チャレンジテストにおいては、得点が府平均の 7 割未満である生徒の割合が依然多く存在している。

これまで安定した生活習慣の獲得とキャリア教育を行うことで、進路選択の意識を高めて教育活動を進めながら「確かな学力」を目指してきた。特に外国語教育の中長期的な対策を最大の課題として、外国語教育における小中連携を発展させ、校内でも英語教育に力を注いできた。これらについては学力テストの結果や校内アンケートの結果から一定の効果が認められた。この方向性は維持しつつ、授業そのものを見直し、「わかる」「できる」授業の推進により、基礎学力の定着と個に応じた学力向上を推進していく。また、今後も学力向上に向けて自学自習の習慣を身に付けさせたい。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和 7 年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校に行くのは楽しい」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 85 % 以上とする。 (R 4 現在 83 %)
- 令和 7 年度末の校内生徒アンケートにおいて「自分には良いところがありますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80 % 以上とする (R 4 現在 75 %)
- 令和 7 年度の全国学力・学習状況調査において「将来の夢や目標を持っていますか」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 70 % 以上とする (R 4 現在 69 %)
- 令和 7 年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合*を 65 % 以上とする。 (R 4 現在 2 年 26 % 3 年 35 %)

*大阪市教育振興基本計画の不登校への対応より抜粋

前年度不登校であった生徒のうち、不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の 1 ~ 3 に該当しているなど総合的な判断により、不登校の状態が改善されたとする人数を把握

- 1 出席日数の増
- 2 I C T の活用等による、本人・保護者と学校がつながる回数の増
- 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査において平均正答率の対全国比を国語・数学とも0.95以上とする。 (R4現在 国語0.87 数学0.86)
- 令和7年度の大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を70%以上とする。 (R4現在38.5%)
- 令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査において体力合計点の平均を男女とも全国平均以上とする。 (R4現在 対全国比 男子0.96 女子1.00)

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクトなどのICT機器を積極的に利用している」に対して肯定的に回答する生徒の割合を85%以上とする (R4現在86%)
- 令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」の項目についての肯定的回率を80%以上とする。 (R4現在75%)
- 令和7年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている」に対して肯定的に回答する生徒の割合を40%以上とする。 (R4現在27%)
- 令和7年度末において教員の勤務時間の上限に関する基準2*を満たす教職員の割合を80%以上とする。 (R4年度1月集計現在64%)

*学校園における働き方改革推進プランより

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2~6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。 (参考値 R3全国学力調査 78.5%)
- 年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。 (現状 6.56%)
- 年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる (現状 11%)

学校園の年度目標

- ①年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。 (現状 保護者18% 生徒36%)
- ②年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。 (現状 78%)
- ③年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。 (現状 49%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

全市共通目標（中学校）

- 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。 (現状 33%)
- 中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- 大阪市英語力調査における CEFR A1 レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を68%以上とする。 (現状 67%)
- 年度末の校内調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。 (参考値 R3 全国体力調査 48%)

学校園の年度目標

- ①3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30%以上とする。 (現状 28.7%)
- ②令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。 (現状 男子 41.56 女子 46.99)

【学びを支える教育環境の充実】

全市共通目標（中学校）

- 学習用端末を活用した朝学活を週1回実施する。
- ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

学校園の年度目標

- ①年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的回答率を30%以上にする。 (現状 25%)
- ②年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。 (現状 44%)
- ③令和7年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。 (現状 24%)

3 本年度の自己評価結果の総括

今年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響により学校行事の変更や中止があり、生徒の取り組みを制限する場面もあった。運営に関する計画に従った活動にも影響があった。

【安全・安心な教育の実現】の年度目標 6 項目において達成できた項目は 5 項目であった。教職員の各取組によって生徒の活動の支援ができており、生活指導面でのこれまでの対応によってある程度の学校生活の安定が図られていることが基盤となって達成し出来ていると感じている。一方で未達成の 1 項目は不登校率の増加である。不登校生に対する対応は、個々に対する生徒理解・指導に加え、外部機関や家庭との連携などきめ細かく対応し、今年度より校内で週 1 回の不登校適応教室を開設するなど取り組んでいる。不登校状態からの完全な改善には時間がかかるが、今後継続して不登校生に支援する。また、これまでと同様に不登校を生まない集団づくりと生徒理解を継続して行わなければならないと考えている。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】の年度目標 6 項目において達成できた項目は 3 項目であった。英語力については年々向上している。また、運動に対する意識も向上した。未達成 3 項目においては以下の 3 点であった。

(1) 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を目標値 40 % のうち 33 % であった。

(2) 同一母集団における 2・3 年生チャレンジテストの国語・数学の対応比の増加において 3 年国語のみ増加をし、それ以外については、微減となつた。

(3) 令和 4 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させるにおいて女子は達成できたものの男子において達成できなかつた。

(1) (2) において、学力向上に向けて取組を進めてきたが、結果に結びつけることができなかつた。授業改善のため、さらに教職員の研究授業や研修など進めるとともに自学自習を身に付けていけるよう学力向上支援チーム事業等を活用して来年も取り組んでいく。(3) においては、体育の授業や部活動の活動などが、この 3 年間制限があり、その影響は大きいと感じられる。(1) (2) (3) において、これまでの新型コロナウイルス感染拡大防止の対策が緩和されていく。継続的に取り組んでいき、学力向上につなげていきたい。

【学びを支える教育環境の充実】の年度目標 5 項目において達成できた項目は 2 項目であった。未達成は 3 項目において、ゆとりの日の設定について広く教職員に周知したものの完全に実施できたとは言えない状況にあった。今後改善させる。図書館の利用についてはアンケートについて改善方向にあるが、達成できなかつた。今後、同様に取組を進め改善を図りたい。令和 7 年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合については、肯定的意見が 75 % に達しているものの最も肯定的回答は 20 % であった。広報方法の見直しや伝わりやすい工夫が必要だと考えている。

大阪市立東淀中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【安全・安心な教育の推進】	
全市共通目標(中学校)	
○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	<u>○80%</u>
○年度末の校内調査において、不登校の在籍比率を前年度より減少させる。	<u>×10.5% (昨年度 6.56%)</u>
○年度末の校内調査において前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる	<u>○ 2年26% 3年35% (昨年度11%)</u>
学校の年度目標	B
①年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。	
②年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を80%以上にする。	<u>○82%</u>
③年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。	<u>○58% (昨年度49%)</u>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向1、安全・安心な教育環境の実現】 いじめの認知をアンケートや日々の観察による早期発見、早期解決を図り、いじめを許さない心を育てていく。	
指標 「いじめについて考える日」を設定して、いじめに関する校長講話と学級活動を行い、いじめを許さない学級・学校づくりについて学校全体で再認識する。 学期に1回いじめアンケートを実施し早期発見、早期解決を図る。 いじめについての全体研修会を年5回以上実施し教職員の共通理解を図り、学年ごとに年3回以上いじめに関する取組を実施する。 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。	B

<p>取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>生徒の情報交換を密に行い、教職員が生徒理解に努め、問題行動や不登校の未然防止をするとともに早期発見を行う。生徒一人ひとりに寄り添った適切な支援を行うことで、問題行動や不登校の早期解決を図る。</p>	B
<p>指標</p> <p>学年は隨時、週に 1 回主任会、教職員全体に月 1 回生徒の情報交換を行う。生徒一人ひとりの実態を把握し、それに応じた指導・支援をするため、学期に 1 回教職員全体でスクリーニング会議を開催し、必要に応じて外部機関と連携する。</p> <p>日々生徒理解に努め、「アセス」を活用するとともに年 2 回以上教育相談を行う。</p> <p>不登校の生徒において家庭と連携しながら学校に登校できるように支援することで、不登校の在籍比率を前年度より減少させ、前年度不登校生徒の改善の割合を増加させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>自ら危険を回避するために主体的に行動する態度と安全で安心な社会づくりに貢献する態度を育成するため、区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を推進する。</p>	A
<p>指標</p> <p>「防災・減災カリキュラム」を適宜見直し、年間計画をもとに防災・減災教育を進める。年間 2 回以上校内で避難訓練を行い、防災意識を高める。区や消防署、地域と連携して防災・減災教育を生徒が主体的に取り組める活動になるよう実施する。</p> <p>年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。</p>	A
<p>取組内容④【基本的な方向番号 2、豊かな心の育成】</p> <p>生徒の勤労観や職業観を育てるため 3 年間を見据えたキャリア教育の計画を作成し、実践する。</p> <p>経年で職業講話、職場体験、出前授業とつながりを持った取組を行っていくことで将来への具体的な目標を持たせ、自発的な学習意欲を育んでいく。</p>	B
<p>指標</p> <p>キャリアパスポートを活用しながら体系的・系統的にキャリア教育を進めるとともに、企業や団体との連携し、各学年とも年間 2 時間以上でキャリア教育体験活動を実施して進路選択への意識を高めていく。</p> <p>年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合を 80 % 以上にする。</p>	B

取組内容⑤【基本的な方向番号2、豊かな心の育成】

人権教育や道徳教育の推進し、道徳心・社会性の育成を図る。さらに、集団行動訓練や活動を通じて、安全に配慮し、自他の生命の尊厳とともに互いの大切さを認め合い、支え合いながら問題解決できる集団づくりを推進する。

指標

人権教育年間指導計画と道徳教育年間指導計画を作成し、計画的に実行する。命の大切さを自他ともに実感できるような取組を系統的に実施する。各学年で生命の大切さを育む授業を年1回以上行い、泊を伴う活動において集団づくりの取り組みを行うことで、年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する割合を前年度より増加させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①について

- ・「いじめについて考える日」に校長から全校生徒に講話をした。
- ・学期に1回いじめアンケートを計画通り実施し、いじめの早期発見、早期解決を図った。
- ・生徒理解の研修を5回実施した。また、いじめ防止のための学習（情報モラルについて）を外部の講師を招いて生徒と共に受講した。
- ・各学年でいじめ、集団づくりに関する取り組みを以下のように実施した。
1年：「いじり」についての学習、一泊移住、班活動の取り組み、体育的行事の取り組み
百人一首大会、合唱コンクール
2年：校外学習（2回）、規範意識向上についての学年集会、体育的行事の取り組み
音楽発表会（合唱）
3年：修学旅行、学年集会、全体合唱の取り組み、体育的行事の取り組み

取り組み内容①の結果と分析

- ・年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答した割合は保護者24%、生徒44%であり、昨年度より保護者で6ポイント、生徒で8ポイント向上した。
- ・生徒主体で行事などを取り組ませることにより、生徒相互の理解が深まったことが向上につながったと考えている。

取り組み内容②について

- ・主任会や学年会、職員会議で生徒の情報交換を行っており、全教職員で生徒を見守る体制をとることができた。
- ・学期に1回スクリーニング会議を実施し、生徒の状況把握と必要な支援の検討を行うことができた。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、区役所や子ども相談センターなどと連携して、多角的に生徒の状況を把握することができた。
- ・1年生で「アセス」を実施し、生徒理解に役立てている。また教育相談は全学年、年間4回実施し、生徒の悩みや細かな変化に気がつけるようにした。

取り組み内容②の結果と分析

- ・不登校の在籍比率は全体で10.5%であり、昨年度より7ポイント増加している。しかし、改善傾向にある生徒も多く見られ。1学期不登校生だった生徒が年度末までに4名が改善した。
- ・昨年度からの不登校の改善傾向数は、学年のきめ細かな支援により2年生で26%、3年生で35%であった。
- ・各学年、各担任が不登校生徒の個々の状況に応じて働きかけを行ってきた。また、必要

に応じて外部機関と連携し必要な支援を入れることで、完全に家から出られない不登校生がフリースクールに通えるようになったり、学校へ週1回登校できるようになったりした生徒もいた。今後も引き続き一人ひとりに寄り添ったアプローチを続けていく。

取り組み内容③について

- ・1学期に火災を想定した避難訓練と2学期に地震を想定した避難訓練を実施した。さらに、2学期には区や消防署、地域と連携した防災・減災教育を行い、体験を交えた学習ができた。
- ・夏休み前に警察の方に来校していただき、薬物乱用防止教室を実施した。

取り組み内容③の結果と分析

- ・年度末の校内生徒アンケートにおいて「学校は、生徒の健康や安全に配慮している」の項目に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答した割合は58%で、前年度の49%より大きく上回った。
- ・防災学習の取り組みを進めている成果である。今後も生徒の実生活に関連させ、実際に使えるものをめざして取り組みを進めていく。

取り組み内容④について

- ・キャリアパスポートを活用している。
- ・各学年での取り組みも進めている。

1年：着こなしセミナー、進路学習 2年：校外学習（高校見学）、職業講話、着こなしセミナー、職業講話（ハローワーク）、職業についての学習（グループワーク） 3年：進路学習

取り組み内容④の結果と分析

- ・年度末の校内生徒アンケートにおいて「将来に向けて進路やよりよい生き方について考える機会が多い」に対して肯定的に回答する生徒の割合は76%であり、目標の80%には届かなかった。
- ・1年生は3学期に進路学習をするので、結果に反映されていないところもある。

取り組み内容⑤について

- ・各学年で命の大切さを育む講話を講師の方を招いて実施した。
- ・1年生では一泊移住、2年生は校外学習を2回、3年生では修学旅行を実施し、集団づくりの取り組みを行っている。

取り組み内容⑤の結果と分析

- ・年度末の校内アンケートにおいて「相手の立場を思いやる集団」の項目に対して最も肯定的な「そう思う」と回答した割合は、保護者24%、生徒44%で、昨年度の回答より保護者6ポイント、生徒8ポイントと大きく向上している。

次年度への改善点

- ・集団づくりについて様々な行事ができる限り生徒主体で取り組ませていくことを継続する。
- ・キャリア教育について各学年、取り組みを行ってはいるが、次の学校段階への進学や未来の社会を創り上げていくという視点につながっていない場合があると考えられる。取り組みのたびに意識をさせていく必要がある。
- ・全体的にアンケート結果は向上傾向だが、これからも一人ひとりのことを大切にしながら、行事などを行い、お互いに認め合えるような取り組みを粘り強くすすめていく。

(様式2)
大阪市立東淀中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった		年度目標	達成状況		
【未来を切り拓く学力・体力の向上】					
全市共通目標(小・中学校)					
○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。	<u>× 33%</u>				
○中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。	<u>× 2年 国語 -1 ポイント 数学 -1 ポイント 3年 国語 +5 ポイント 数学 -4 ポイント</u>				
○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を35%以上とする。	<u>○ 38.5%</u>	B			
○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。	<u>○ 55%</u>				
学校の年度目標					
①3年生における英検3級を取得している生徒の割合を30%以上とする。	<u>○ 32.4%</u>				
②令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。 <u>×男 39.59 ○女 47.32 (昨年度男 41.56 女 46.99)</u>					

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標		進捗状況
取組内容①【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 習熟度授業など個に応じた学習の推進をするとともに校内で相互参観週間を設け、全教員が研究授業を行うことによって授業改善を意識し、「わかる」「できる」授業を推進する。		
指標 ICT機器の活用や主体的・対話的で深い学びなど課題を持って全教員が必ず研究授業を1回以上行う。授業を伴った校内研修会を実施し授業改善をすることで、年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。(R4後期 33%)	B	

<p>取組内容②【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 各教科、各学年で学力向上に向けた取り組みを進める。各教科において家庭学習課題や長期休業中における学習課題を精選、提供する。学校元気アップ事業や学力向上支援チーム事業を活用して、テスト前学習会や放課後学習会を開催することで学習機会を増やし、自学自習の習慣を身につけさせる。学力向上を進めていく。</p> <p>指標</p> <p>各教科で全市共通テスト等の結果データを分析し、授業で活用するとともに共通テスト前にプレテストや対策学習を実施する。各学年で朝の学習の時間を設けて実施する。テスト前学習会の実施、放課後学習会を週2回以上開催する。</p> <p>中学校チャレンジテストにおける国語及び数学の平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向番号4、誰一人取り残さない学力の向上】 英検を受験することで目的意識を持たせ学ぶ意欲を高める。C-Net講師と連携した実践的な授業を工夫していくとともに、英会話能力を向上させる。</p> <p>校区3小学校に先生を派遣し、小学校と連携した英語力の向上を目指す。</p> <p>指標</p> <p>3年生対象に英検を校内で実施し受験する。英語の授業においてC-Net講師と連携しながら英検取得の学習を行い支援する。また、英検や3年生大阪市英語力調査における4技能を伸ばすことに特化した授業を年間8時間以上行う。実際に英検3級以上を取得できた生徒の割合30%以上を目指し、大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を35%以上にする。(英検3級 R4 32.4%) (CEFR A1 R4 38.5%)</p> <p>英語教諭を小学校に派遣し、小学校教員と連携して年間100時間、校区3小学校での英語授業を行う。</p>	B
<p>取組内容④【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】 体育科においてダンスの授業に力を入れ、外部講師とも連携しながら、リズム感の育成と集団育成に役立てていく。</p> <p>指標</p>	
<p>1、2年生の体育授業において5時間以上ずつダンス講師の授業を行い、年3回以上の校内実技研修を実施し、授業においての成果を発表会の場で表現できるようにする。年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。(R4後期 55%)</p>	B

取組内容⑤【基本的な方向番号5、健やかな体の育成】

部活動の活性化を図り、体力の向上を目指すとともに、目標や成長の過程を身近なものにすることで、自尊心や達成感を持たせる。部活動への加入率を増やし、集会などを通して規範意識を高める。

指標

新入生に部活動への体験入部期間を設け、適正かつ希望する部活動へ入部できるようを行う。部活動指針に従い運営し、プレーヤーズファーストの精神に基づき生徒の意志や成長を最優先に指導しながら、部活動への加入率を昨年度（67.3%）以上に維持する。令和4年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点の平均を昨年度よりも向上させる。（部活動加入率 R4 65.5%）

B**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析****・【取組内容① 指標】**

年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を40%以上にする。

⇒コロナ禍において、話し合う活動が制限されている中で、目標値40%のうち、33%に達している。そのことから、「B」の目標どおりに達成したということができる。

・【取組内容⑤】

部活動への加入率は、R5 2月現在、65.5%である。目標値67.3%以上を考えると、十分に、「B」の目標どおりに達成したということができる。

次年度への改善点

・令和5年度も、今年度同様に、目標達成のために、日々の指導を着実に進めていく。

(様式2)

大阪市立東淀中学校 令和4年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかつた	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかつた

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <p>○学習用端末を活用した朝学活を週1回実施する。 <input checked="" type="radio"/> ○ ○ゆとりの日を週に1回設定・実施する。 <u>○設定 ×完全実施</u></p> <p>学校の年度目標</p> <p>①年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的回率を30%以上にする。 <u>×27%</u></p> <p>②年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。 <u>○49% (昨年度 44%)</u></p> <p>③年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する保護者の割合を昨年度よりも向上させる。 <u>×20% (昨年度 24%)</u></p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向番号6、教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】</p> <p>ICT機器を効果的に利用して、教育の質の向上を目指す。また、デジタル教材の活用で個に応じた学習と主体的な学びの育成を推進する。一人一台端末の使用により生徒の心の状態や日々の状態を可視化することで、いじめや不登校などの未然防止・早期発見につなげる。</p> <p>指標</p> <p>授業でICT機器の利用を進めることで、年度末の校内生徒アンケートにおいて「授業や学級活動などで、パソコン・プロジェクターなどのICT機器を積極的に利用している」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。デジタル教材を活用した朝学活を週1回以上実施する。一人一台端末を活用して、心の天気、いじめアンケート等を入力させることで情報を共有し、生徒理解を深める。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向番号7、人材の確保・しなやかな組織づくり】</p> <p>働き方改革を推進し、教員の長時間勤務の解消をしながら、生徒一人ひとりに対して向き合う時間を確保し、教員が健康的でかつ活気ある職場環境を目指す。</p> <p>指標</p> <p>毎週水曜日をゆとりの日と設定し、校内月中行事に記載する。実施日には、管理職よりゆとりの日を宣言し連絡黒板に明記する。ゆとりの日においては、原則生徒対応・生活指導対応以外は午後7時までの退勤とする。</p> <p>これまで実施していた長期休業中の学校閉庁日の設定を継続して実施する。</p>	B

取組内容③【基本的な方向番号8、生涯学習の支援】

生徒の読書環境を充実させることで読書を促し、読解力を高める。

生徒による文化委員会の活動を中心に、図書への意識を高め、図書室利用の活性化を図る。図書室の利用を通じて多様な知識を身に付けさせるとともに、広い視野で物事を考える力を養う。

指標

定期的に行う文化委員会の活動で図書室利用を促進する方法を議論して取り組む。毎月1回図書館だよりを発行し、図書への意識を高める。

年に1回リサイクル本フェアを実施し、気軽に図書を手に取ることができる機会を設ける。

年度末の生徒アンケートでの「学校の図書室を利用するなど、よく読書をしている。」の項目についての肯定的回率を30%以上にする。

B**取組内容④【基本的な方向番号9、家庭・地域等と連携・協働した教育の推進】**

学校協議会により保護者や地域住民など学校関係者の意向を反映し、学校運営を行う。学校の情報を広く発信する。学校元気アップ地域本部事業を活用してボランティアによる学校支援を行う。これらの取り組みによって開かれた学校づくりを推進する。

指標

学校協議会において運営の計画の策定に意向を反映させる。

学校ホームページにて積極的に情報を発信して年間閲覧件数を80,000件以上にすることで、年度末の保護者アンケートでの「学校は教育活動の様子を保護者や地域に伝えている。」に対して最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を昨年度よりも向上させる。学校元気アップ地域本部事業を活用して週2回の放課後学習会、テスト前学習会、週1回の図書室において地域ボランティアを配置することで自主学習支援、図書室の活性化を図る。

B**年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析**

- 各教科においてICT機器を活用した授業を進めることができた。年度末の生徒アンケート結果でも、目標の数値を達成することができた。一人一台端末を利用した朝学習の取り組みも進めることができている。いじめアンケートは端末で入力して情報の共有を行っているが、心の天気は十分に実施できていない。年間を通してICT研修会を適宜実施し、色々な場面でICTを活用することができるよう、教員への共通理解を図った。
- 年間を通してゆとりの日と学校閉庁日の設定と教職員への周知はできた。実質7時退勤は実現できていない。
- 文化委員会で図書室の運営や読書を促す取り組みを実施できた。月1回の図書室だよりの発行やリサイクル本フェアを実施するなど、生徒に本を読む機会を提供する取り組みを進めることができた。しかし、年度末の生徒アンケート結果では目標の数値に、わずかに届かなかった。
- 学校元気アップ事業を活用し、週2回の放課後学習会やテスト前学習会のボランティア、週1回の図書室ボランティアを配置し、学習支援や図書室の活性化を図ることができた。

- ・年間を通して、ホームページで学校での取り組みや情報を発信することができた。閲覧件数は2月24日現在で72200件。学年通信も適宜発行し、学校の様子を保護者に伝えるよう取り組んだが、年度末の保護者アンケート結果は、昨年度の肯定的回答よりわずかに低かった。

次年度への改善点

取り組みは進めることができているが、生徒や保護者アンケートにおいて、目標数値を達成できない項目があった。来年度も取り組みを進めるとともに、情報の発信にも力を入れていく必要がある。